

会議の進め方にもこれはあてはります。私が司会をする時にはカードを用意します。意見を一枚ずつカードに書いておいてグループ分けをしていると、どの面からの意見が不足しているかを見つけることができます。何らかの仮説を立てながら物事を進める場合に、見えない部分、落としている部分を見つける方法は、最も身近な事柄を用い、最も原始的な方法でチェックしていくことです。これを我々は、クロスワードパズル、縦の鍵、横の鍵と呼んでいます。例えば、組織を作るとしますと、野球ゲームに置き換えるとか、劇を作るとか、食事を作ることに置き換えるとかしてチェックしていきます。この場合は、投手の役目は何か、我々の会社としては野球やアイスホッケーを実際に見学してその組み立てを参考にすることがあります。音は、テープレコーダーにほとんど選択なく録音されます。私はよく外国に旅行しては、意味のない音を収集してきます。それは後から聞く愉しみであり、何かを見つける拠所にもなります。

視覚、嗅覚、聴覚、触覚、味覚を鍛えることは自己の可能性を自分で見つけ出す一つの方法でしょう。発想して行きづまったら全く逆のことを是としてスタートすることで理解できるかもしれません。

我々は仕事を進める当り、センターファイルを用いています。そこには最初から過去の事例とこれからの将来の見込みがインデックスとして、事前に指定され、そのホルダーに従い、作業の経過の記録が項目別に整理整頓できます。

このような進め方で、関係者全員が、仕事の情報、特に、その過程をすべて知ること、事実を否定せず、幅広い認識にたつことが出来、相互理解への道につながるのです。

まとめの言葉、

1. 価値判断は一面からのみにしないこと — 過程を出来るだけ残すこと
2. 創造性は自分の行動パターンを意識的にかえることから作り出せる
3. 将来の見えないものは過去のどこかにその姿が既に見えているし、それを解く鍵は自分達の身近なところにある。